報告とお礼

8 月 13 日「放射能汚染水流すな！京都行動」に 100 人超が参加

関電京都支社前→烏丸通→四条通→河原町通→京都市役所を果敢なデモ行進

「韓日市民徒歩行進」と合流、外国人観光者も声援、国際連帯で「汚染水流すな！」

虚偽と欺瞞に満ちた政府と東電が、放射能汚染水の海洋放出を画策

◉政府と東電は、福島原発でたまり続ける放射能汚染水に関して、①「関係者の理解なしにいかなる処分もしない」、②「理解と納得が得られるように丁寧に説明を続ける」と繰り返しています。それでも、政府と東電は、最も関係の深い福島県漁連、全国漁連をはじめ、多くの国内外の反対の声を無視して、8月中にも汚染水を太平洋に垂れ流そうとしています。このように、平気で約束を反故にする政府や東電が、どんなに「安全」といっても、信用できる筈がありません。彼らには、人の命や健康より経済的利益の方が大切なのです。

◉政府と東電の説明は、科学とは程遠いものです。例えば、汚染水を希釈して、トリチウム濃度を基準値以下　にして海洋放出するから安全と言っています。では、基準値なるものはどこで、どのような根拠で決まったのでしょう？天然水1リットル（L）中のトリチウムの濃度は約1ベクレル（Bq）です。ところが、トリチウムを含む水の環境放出規制基準は1L当たり60,000Bqと定められています。この基準は、原発を運転すれば、この程度のトリチウムが放出される可能性があり、基準値をこの高濃度にしておかないと原発を運転できないから定められたのです（原発や原子力施設の稼働の都合で定めた基準です）。この濃度でも、人や生物にとって安全というものではありません。政府と東電は、このような原発運転の都合で定めた高濃度を規制基準とし、その40分の1の濃度（1,500 Bq/L）まで希釈して放出するから、海洋放出は安全としています。

　また、トリチウムの放射線は紙1枚で止まるから弱いとしています。しかし、α線やβ線が紙1枚で止まるのは、弱いのではなく、物質と強く相互作用するからです。このことは、体内に取り込まれたトリチウムから出る放射線のエネルギーは、全て体内のタンパクやDNAの破壊に使われることを意味します。トリチウムによる内部被ばくが深刻である理由です。一方、政府や東電は、ALPSで処理した放射能汚染水は、トリチウム以外の放射性物質を含まないかの如く宣伝していますが、極めて高濃度ではないものの、無視できない濃度の放射性物質（ヨウ素129、ストロンチウム90、ルテニウム106など）が残存している可能性が大であることは彼らも認めるところです。

◉政府と東電は「国際機関・IAEAが報告書でお墨付きを与えたから、海洋放出は安全」としていますが、IAEA は「国際原発推進機関」であり、原発マネー、原子カムラからの人員派遣で運営されていることを考えれば、全くの欺瞞です。そのＩAEAのグロッシ事務局長でさえ「IAEAの報告書は、処理水の海洋放出計画を認めるものではなく、最終決定は日本政府が下すもの」とし、IAEAは海洋放出計画の承認も推奨もしていないことを認めています。

◉政府や東電は、韓国、中国、欧州などの原発、原子力施設でもトリチウムを環境に放出しているとして、これらの国からの汚染水の海洋放出への批判をかわそうとしています。しかし、これらの国の人々の多くは、当然、自国のトリチウム放出にも反対しています。トリチウムによる健康被害を訴える闘いも各国で起こっています。いかなる国でも、トリチウムを環境放出することは許されないのです。

◉政府や東電は、海洋放出のみが汚染水対策とし、海洋放出を強行しようとしていますが、陸上保管して自然減衰を待つこともできます。そうしないのは、今後予想されるトリチウムの再処理施設などからの海洋への大量放出を正当化するための前例にするためです。

人の命と健康、人の尊厳を蹂躙する放射能汚染水の環境（海洋、大気）への放出を許してはなりません！
環境は、世界につながっています！

8.13の京都行動には、「汚染水流すな！」を訴えて、ソウルから東京・国会議事堂まで、1600 km を行脚（韓日市民徒歩行進）中の李元栄（イ･ウォニョン）前水原（スオン）大学教授も参加

8.13「放射能汚染水ながすな！京都行動」の集合場所・JR 京都駅西の東梅小路公園には、京都、滋賀、大阪、山口、兵庫、奈良、愛知など各地から、100 人を超える人が結集されました。16 時過ぎから、自作のプラカードを描いたり、アピールをしたりして、ミニ集会の開始を待ちました。ミニ集会では、主催者の趣旨説明の後、韓国・ソウルを 6 月 18 日に出発し、下関（7 月 16 日）、広島、岡山、兵庫、大阪を経て、東京・国会議事堂（9 月 11 日到着予定）まで、1600 km を行脚（韓日市民徒歩行進）中の李元栄（イ･ウォニョン）前水原（スオン）大学教授からも、「汚染水流すな！」の熱いアピールを受けました。

　デモは 17 時 20 分出発で、関電京都支社前を通り、烏丸通、四条通、河原町通を経て、京都市役所前に 19 時過ぎに到着しました。圧巻は、京都一の繁華街での李先生の韓国語のアピール（通訳付き）「自国の政府が誤った事をしているとき、それを正すのが、みなさんの大切な仕事です」でした。ソウルからずっと歩き通している李先生の訴えに、胸を打たれた人は数多いことだと思われます。国際観光都市･京都は、外国人旅行客で溢れています。四条通に李先生のアピールが轟くと、京都市民のみならず、数知れない海外からの旅行者が、引き寄せられるように、聞き入り、カメラを向け、手を振ってくれました。猛暑下でのデモでしたが、感動的なものでした。

　強靭な身体と、確たる信念と、ユニークな発想をもつ李先生は、誰もが、行動をともにしたくなる大きな人でした。私達に渡された行動のバトンを、多くの人の行動として、受け継ぎましょう！

8.13 京都行動にご参加のみなさん、ありがとうございました。まだまだ、闘いは続きます。李さんは、9 月 11 日の国会到着を目指して、今も、歩いておられます。各地での連帯行動をお願いします。

2023 年 8 月 15 日　　「老朽原発うごかすな！実行委員会」
（連絡先；木原壯林：090-1965-7102）

集会前に各自ユニークなプラカードを手作り

ミニ集会

主催者あいさつ　　李元栄先生アピール

ミニ集会

カンパの贈呈　　参加者の集合写真

デモ行進

デモの先導車　　デモ出発

デモ行進

デモ出発　　塩小路通へ

デモ行進（烏丸通を北上）

デモ行進

四条通へ　　四条通を東進

デモ行進（四条通を東進）
李元栄先生アピール

デモ行進

四条通　　河原町通を北進

京都市役所に到着（集合写真）

海は世界につながっている！
放射能を流して、世界の人々を被曝させるな！

「原発推進法」が成立しても、実行させない、老朽原発の運転を認めない闘いの前進を！

「老朽原宇うごかすな！実行委員会」は、以下の行動を呼びかけています。皆様のご支援、ご参加をお願いします。

【1】「一食（いちじき）断食」運動

「一食断食」して、少しひもじい思いをしなが、原発利用の理不尽、福島原発事故の悲惨さ、子々孫々に負の遺産・使用済み核燃料、核廃棄物を残すことの罪深さ、などに思いをいたし、「原発依存社会への暴走」に抗議する運動。

9月1日（金、10:00～16:00）には、関電本店（大阪）前で、数百人による「一斉一食断食行動」を実施します。

【2】「高浜原発2号機うごかすな！」現地緊急行動

関電は、最老朽の原発・高浜1号機を、7月28日に再稼働させ、9月中旬に高浜2号機の再稼働を画策しています。許してはなりません。**2号機再稼働の当日（9月15日？）には、高浜現地で、緊急抗議行動に起ちます。**

【3】10.22「使用済み核燃料の行き場はないぞ！」全国集会（仮称）

関電は「使用済み核燃料の中間貯蔵地を、本年中に福井県外に探す」とした約束を、わずか5%の使用済み核燃料フランスに搬出すること、上関で中国電力とともに調査を開始することを口実に、反故にしようとしています。関電は、空約束と詭弁によって人々を騙す、倫理のかけらも持たない企業です。**何としても約束を履行させる大行動を繰り広げましょう！。**

【4】12.3「とめよう！原発依存社会への暴走 1万人集会 -うごかすな老朽原発-」（大阪市内）

原発推進関連法は、先の通常国会で成立しましたが、実行するには、関連の法体系の整備が必要です。また、法をどのように解釈・運用するかは反原発の行動との攻防によって決まります。

起死回生の大闘争によって、「原発推進関連法」を空洞化し、原発のない、人の命と尊厳が大切にされる社会を実現しましょう！